

平成31年度施政方針について

澁谷 政義



〔質問〕企業誘致に関しては、過去に幾度か議論があった。

〔答弁〕市長「現在、スマートインターチェンジの整備に向けた協議・調整に合わせ、工業団地の造成も含めたエリア整備が必要かどうかについて検討しているところである。

〔質問〕有害鳥獣対策について、箱わな製作の補助金は3年に1基しか申請できない。毎年助成を受けて箱わなを製作し、被害防

止に寄与したい要望があるが、所見を伺う。

〔答弁〕市長「箱わな補助は、箱わな設置者以外でも補助が受けられることから、地域ぐるみの話し合いによる購入等により対応いただきたいと考えている。

〔質問〕農地中間管理事業を推進し、生産現場の強化と耕作放棄の発生防止に努める方針だが、所見を伺う。

〔答弁〕農林課長「今後も、さらなる制度の周知、啓発に努めていきたいと考えている。

◎市道高畑線整備について

〔質問〕国道4号沿いの福岡地区は「農商工連携を核とした賑わい交流拠点」の整備や大型スーパー等の出店など、本市第二の商業エリアとなっている。

当地は、店舗への出入りで渋滞が発生していることから、住民の安全と交通の円滑性を図るため、早急に市道高畑線の整備を行うべきと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕市長「周辺道路の交通状況も調査しながら、改良工事を検討していきたい。

◎白石和紙保存について

〔質問〕白石和紙保存について、原料「虎斑楮」のみを用いた紙漉きを市民グループ「蔵富人」が引継ぎ、伝統の工程を継承している。

歴史ある文化財産をどのように未来につないでいくのか伺う。

〔答弁〕市長「白石和紙を未来につないでいくには、多くの方に状況を周知し、理解と参画をいただくことが重要であり、財源についても検討していく必要があると考えている。

◎学習状況調査について

〔その他の質問〕

財政運営について

沼倉 啓介



〔質問〕当初予算の提案に至るまでには、厳しい過ぎる環境の中でも活路を見出し、財政運営の安定性を求めている姿をかいま見る。

市民サービスの低下を伴わないような財政運営の維持のためには、どのような努力が必要とされているか伺う。

〔答弁〕市長「安定的な財政基盤を確立し、子どもたちや次の世代にツケを残さない、市政課題を先送りしないことが大事であると考えている。

〔質問〕地方債の活用を通して、今後の負担と現在の安定性を図り、均衡を保っていく。これが地方債の大きな存在

意義であると思う。

本市が安定的財政運営を図っていくにあたり、地方債をどのように活用するのか伺う。

〔答弁〕市長「今の本市の体力を見ると、単費で事業全てを行うことは不可能であることから、今後も最大限に地方債の活用を進めていきたい。

また、財政の健全性を維持していく上で、公債費として起債の償還も計画的に進めているところである。

〔質問〕市民自体が、地方自治体に対する財政の姿を意識し始めていると思う。

財政運営の安定化を図るためには、市民を巻き込んでいく必要性があると思うが、所見を伺う。

〔答弁〕市長「市政運営

は行政だけでなく全て完結できるものではない。

市民の理解と協力は必要不可欠であると考えている。

◎「祭り」と「まちづくり」について

〔質問〕夏の花火大会がなくなり、今度は夏まつりがなくなるのではないかと話があるが、「祭り」についての見解を伺う。

〔答弁〕市長「夏まつりを含めた市内のお祭りは、活気とにぎわいを創出し、まちづくりに大きく貢献すると理解しているが、白石商工会議所より平成31年度以降は、白石夏まつりの実行委員会事務局を引き受けられない旨の申し出があった。

平成31年度からの夏まつりの実施体制は、市が実行委員会事務局を受け持つことはせず、事務局を担える団体に対し、補助金を交付する形で実施していきたいと考えている。